

ハイデルベルク・ストラスブール派遣報告書

京都大学文学部3年 國島知美

私たちは、ハイデルベルク大学とストラスブール大学で紛争と平和というテーマでワークショップをしました。ハイデルベルク大学では英語を共通語として使用しましたが、ストラスブールでは日本語が共通語でした。海外学生との交流する時は英語が多かったのでこういう場で日本語が使われているのは新鮮でした。

ワークショップ当日は、まずはじめに大学内の見学をしました。現地で留学をしている博士課程の先輩に案内していただき、学生寮などの各施設を見てまわりました。やはり京都大学とは趣が違い、現代的でデザインに趣向が凝らされている建物が多かったです。周辺の伝統的な街並みとのコントラストも面白いと思いました。

それからスーパーで各自昼食を買い、ストラスブール大学の学生の方々と合流しました。一緒に昼食をとりながら、日本のことなどを話しました。彼らが日本語を学び始めたきっかけも聞けて楽しかったです。自分の国について興味を持ってもらえるのは嬉しいと思いました。やはり印象としては、日本のポップカルチャーに興味がある学生が多かったです。

ワークショップでは、お互いにプレゼンテーションをしてディスカッションしました。日本学生側のテーマは教科書問題や非武装地帯についてなどで、ストラスブール大学側のテーマは慰安婦問題や北方領土などがありました。はじめ私は、海外の学生と紛争と平和というテーマでディスカッションをすることに不安を感じていました。国籍も背景も違う人が集まってこういったデリケートな話題を扱うのはとても慎重さが必要な作業だと思うからです。そこが、日本の学生同士のみでの議論と違うところだと思っていました。しかし実際にストラスブール大学の学生の発表を聞くなかで、やはり違う背景を持った人ならではの考え方が表れているのが聞けてとても良い機会になりました。同じような背景の人同士で話していても得られないことだったと思います。また、ワークショップに参加していらっしゃった先生方の意見も大変参考になり、自分の考えの甘さを知ると同時に自分なりに新しい視点があることを知れたので良かったです。

ストラスブールでのワークショップ全体を通して、向こうの大学での生活を垣間見れたことが良かったです。今まで、留学はどこか遠いものだと感じていましたが自分も今とは違った環境で勉強をしてみたいと思えましたし、それを現実的なものとして感じる事が出来ました。